

フィリップ・ウィンザー殿の交通事故

1. フィリップ殿下の交通事故

イギリスのエリザベス女王の夫君で 97 歳のフィリップ殿下が、車を運転中に別の車と接触して、その車に乗っていた人々が大けがをしたというニュースがあった¹。同殿下は 2 日後にシートベルトを締めずにドライブする姿が報じられ、事故の相手方が「非常に鈍感」と反発し、殿下の訴追を求める騒ぎになっていると報じられた。相手方の乗用車を運転していた女性は足に切り傷を負い、同乗していた女性は手首を骨折したという。殿下は病院で入念な検査を受けたが、手首を骨折した女性は同様な検査がなく、警察からの事情聴取も受けなかったことに対して、「地位によって扱いを変えるのか」『殿下に責任があるなら訴追されるべきだ』と怒っているという。

われわれの直感的な感想は、「老齢の王族が自ら公道をドライブして交通事故を起こすことができる国って素敵だね!」「庶民が怒り狂って、訴追すると息巻いている社会って、人間同士の対等意識があつて素晴らしい!」というものである。それに引き換え、どこぞの国では、「現人神をやめた」といった人の長男と孫が、即位に際して一晩仮屋に籠って神霊の乗り移りを体現するのだという。「現人神」でないとすると、どんな生物になるのであろうか?

2. もったいぶった元号の制定

このところ、日本政府は「次の元号の発表する時期をいつにするか」とか、「30 年前に「平成」と決めた経緯を記した政府の文書の保存期限の起算日を 2014 年 4 月 1 日として、保存期間の満了日（公開開始日）を 2044 年 3 月末にするといったん決めたが、世論の反発を受けて、起算日を実際に小渕官房長官（当時）が公表した 1989 年 1 月にして、保存期間の満了日を 2019 年 3 月末に改めた²。

元号は、神の子孫である天皇の生命とリンクして宇宙運行の時間を支配するという論理に基づいている。天皇が現人神であるという論理は、1945 年に終了してしまった。したがって、ある時期を示す記号に過ぎなくなった。元号を決めるのを天皇の御簾の陰で、天皇に命じられた学者が匿名で決め、その人選や判断過程を天皇の權威のもとに国民に秘匿するという手続きは、人民主権をないがしろにするものである。もし、国事行為として年号を決定し、それを国民に使わせるなら、まず案を募集し、次いで投票で決めるなど

¹ 「97 歳の殿下 ベルトせずドライブ」『朝日新聞』2019 年 1 月 23 日

² 「平成改元文書 3 月末満了 保存期間前倒し 『遅すぎる』批判で」『日本経済新聞』2019 年 1 月 29 日

の国民に開かれた手続きを踏まなければならない。現在は、国民の目から秘匿しておくことによって権威を誇示しようという姿勢が鼻につく。

3. 元首の消毒

敗戦後、天皇制について多くの議論があった。そして結局〈立憲君主制〉が穏当であろうということになった。ただし、徹底した神格化の否定があった。しばしばイギリス王室との比較が語られたが、「イギリス王室はクロムウェルの革命によって、国王が処刑されるなどして〈消毒〉されているので〈人民主権〉は揺るがない。日本ではまだ消毒されていない」という議論があった。

国家権力が靖国神社参拝のような国家神道との結びつきを強めつつある。これは、民主主義の危機であり、市民社会の精神の危機でもある。

(2019年1月30日 哲)